

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
(分担)研究報告書

HIV 検査体制の改善に向けた戦略研究

研究分担者 今村顕史 (東京都立駒込病院)

MSM を対象とした HIV/STIs 即日検査相談の実施及び innovative な検査手法の開発

研究協力者 星野慎二 (特定非営利活動法人 SHIP)
井戸田一朗 (しらかば診療所)
立川夏夫 (横浜市立市民病院 感染症内科)
吉村幸浩 (横浜市立市民病院 感染症内科)
渋江 寧 (横浜市立みなと赤十字病院 感染症科)
宮島真希子 (東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科)
李 広烈 (東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科)
沢田貴志 (港町診療所)
佐野貴子 (神奈川県衛生研究所)
近藤真規子 (神奈川県衛生研究所)

研究要旨

MSM (men who have sex with men)を限定とした HIV/STIs 即日検査相談を実施することにより、検査相談を受検した MSM の特徴と背景及び、HIV 感染率の推移を把握し、受検者の特徴と背景、HIV 感染率を明らかにすることで、神奈川県地域の MSM に対する HIV/STIs 予防対策の策定に有用な情報を得る事を目的とする。

昨年度に引き続き、2022 年 4 月から 2023 年 1 月まで毎月 1 回実施した。昨年は緊急事態宣言の発令により会場である「かながわ県民センター」が閉鎖されたことにより 2 回の検査が中止となったが、今年度は予定通り実施できた。

実施回数は計 10 回で、述べ 137 名が受検し、陽性者数は、HIV 抗原・抗体 (確認検査で確認) 2 名 (1.46%)、梅毒 TP 抗体 10 名 (7.30%)、HBs 抗原 0 名 (0%)であった。受検者の背景は、MSM が 100%、神奈川県内居住者が 59.9%を占め、最多年齢層は 40-44 歳が 21.1%であった。SHIP の検査相談を過去に受検したことがある受検者は 82 名 59.9%であった。

また、当検査では検査日の 2 週間前からインターネットによる予約受付を行っているが、毎回、予約開始から 1 日で定員に達していることから、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みを有すると示唆された。

A.研究目的

厚生労働省エイズ発生動向における感染経路別割合では男性同性間の性的接触が約7割を占めているが、こうしたことが起こる背景としては、MSMの多くは自分が同性愛者であることを学校や職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し偽り、“異性愛者”を装って生活している。そのことがストレスとなり、成人後のメンタルヘルスに大きく影響し、HIV感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘されている。

また、MSMの中には過去にHIV検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少なくない。このように検査のリピーターが感染してしまう背景として、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが考えられる。行動変容を起こしてもらうためには検査のときのカウンセリングを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。

本研究では、横浜市内でMSM向けコミュニティセンター運営で実績のある特定非営利活動法人SHIPの協力を得て、MSM向けの自発的HIV/STIs即日検査相談（HIV抗体、梅毒TP抗体、HBs抗原）を実施し、その受検者の特徴と背景を明らかにし、HIV感染率の推移を把握する。

B.研究方法

前年度に引き続き4月から1月まで毎月1回、計10回、定員15名の即日検査を実施した。

検査日の1週間前からインターネットによる予約制とし、受検者同士が顔を合わせる機会を最小限にする配慮をした。検査前に下記の項目を含むアンケートを実施した。属性、肝炎ワクチン接種有無、HIV検査受検歴の有無、心配な性的接触の内容等。インフォームド・コンセントを得た後、看護師等による検査前の相談と採血を実施。

その後、臨床検査技師等による検査実施後、医師による結果告知と検査後相談を実施した。

HIV抗原・抗体検査にはダイナスクリーン^BHIV-1・2を、梅毒検査にはダイナスクリーン^BTP抗体を、B型肝炎検査にはダイナスクリーン^BHBsAgを用いた。

ダイナスクリーン^BHIV-1・2が陽性だった場合は、Geenius及びPCR法による確認検査を神奈川県衛生研究所にて追加して実施し、検査相談実施1週後に確認検査結果を医師がSHIPの事務所で受検者に告知した。

（倫理面への配慮）

MSM限定のHIV/STIs検査については、2012年に慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会で審査承認されている。

また、対象者には事前に本分担研究の目的と研究報告書等に記載することを説明してから実施した。また、本検査相談は無料匿名であり、さらに回答者自身のプライバシーへの配慮のため、アンケートの集計にあたっては、数値化することにより、個人を特定できないよう配慮している。

C.研究結果

前年度に引続き2022年4月から2023年1月までに計10回の検査を実施した。10回のうち予約人数は150名で、実際の受検者数は137名であった。

月別検査予約数と受検者数の推移

インターネット予約で、過去に当施設で検査を受けた事がある人は2週間前から、それ以外の人は1週間前から開始しているが、毎回予約開始から1日で予約が一杯になっている。予約システムは定員に達した時点で、受付停止するため、予約できなかった人数をカウントすることができないが、検査を希望しなら予約できなかった人はいると思われる。

10回の述べ予約数150名で、実際の受検者

数は137名で、そのうちIDカードの提示より当検査のリピーターと確認できた受検者は82名(59.9%)であった。(図1)

受験者背景

受検者137名のうち、過去にHIV検査を受けたことがある人は120名(87.6%)で、初めてHIV検査を受けた人は17名(12.4%)であった。(図3)

過去にHIV検査を受けたことがある120名に前回の受検した施設を尋ねたところ84名

(70.0%)が当検査で検査を受けた。

また、保健所で受けた人が21名(17.5%)、病院7名(5.8%)、東新宿検査場3名(2.5%)、クリニック2名(1.7%)、イベント検査2名

(1.7%)、その他1名(0.8%)であった。(図4)

年齢別の最多は40-44歳が29名(15.6%)であり、第2位は30-34歳代25名(18.2%)であった。(図5)

居住地構成では、横浜市が56名(40.9%)と最多で、東京都42名(30.7%)、神奈川県(横浜・川崎以外)が14名(10.2%)、川崎市12名(8.8%)、埼玉6名(4.4%)、千葉5名(3.6%)、その他2名(1.5%)と、県外からの利用者が40.1%を占めていた。(図6)

受検動機は、「性的接触」による心配が65名(37.6%)、「念のため」が99名(57.2%)、「症状が出た」が5名(2.9%)、その他2名(1.2%)であった。(図7)

気になる性的接触について

受検動機で「性的接触」と回答した65名に対して性行動のアンケート調査を行ったところ、初めての相手が46名(70.8%)、いつもの相手が13名(20.0%)、出張ホストが2名(3.1%)であった。また、そのときのコンドームの使用状況では、オーラルセックスのときにコンドームを使わなかった58名(89.2%)、アナルセックス(ウケ)のときにコンドームを使わなかった14名(21.5%)、アナルセックス(タチ)のときに

コンドームを使わなかった21名(32.3%)であった。(図8)

当検査場を選んだ理由(有効回答133名)

当検査場を選んだ理由の調査(複数回答)では、「直ぐに結果が分かるから」109名(82.0%)、「梅毒・B型肝炎も受けられるから」104名(78.2%)、「ゲイ専用なので」61名(45.9%)、「場所が近いから」58名(43.6%)、「曜日と時間帯が受けやすい」52名(39.1%)、「前に受けたから」39名(29.3%)、「その他」5名(3.8%)、「他の検査場が分からない」2名(1.5%)であった。(図9)

満足度調査(有効回答133名)

事後アンケートにおいて、「役に立つ知識が得られた」と答えた人は123名(92.5%)で、「知人・友人にこの検査をすすめてほしいですか」の質問で、「すすめる」88名(66.2%)、「話してみたい」27名(20.3%)であった。(図10)

HIV/STIs検査結果

陽性者数は、ダイナスクリーン^RによるHIV抗体(後に確認検査で陽性と確認)2名(1.46%)、梅毒TP抗体10名(7.30%)、HBs抗原0名(0%)であった。(図1)

HIV陽性2名のうち、1名は日本国籍、生涯受検歴なしで、HIVと梅毒の重複感染。他の1名は外国歴、当検査のリピーターであった。また、TP抗体10名のうち、過去に既往歴のない人は1名で、他9名は既往歴のある人だった。(図2)

D. 考察

IDカードの提示より当検査のリピーターと確認できた受検者は82名(59.9%)であった。

また、リピーターのうち、過去3年以内に3回以上の受検者は22名(45.83%)であった。

事後アンケートにおいて、92.5%の受験者が役に立つ情報が得られたと答え、86.5%がSHIPの

検査を知人に「すすめたい」「話してみたい」と答えていることから、利用者の満足度は高く、MSMに親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆された。(図10)

その一方で、予約開始から1日で定員に達していることから、更なるニーズに応えるには定員の増加、または検査回数の増加が必要とされる。しかし、SHIPは専用の検査施設を持っていない。検査相談に用いる多岐に渡る物品と資材は、通常はSHIPの事務所で保管され、検査の度に、少ない人的資源で、検査会場に運搬・移動・設置している現状では、検査回数を増やすことは難しい。そのため、上記を解決できる恒久的な検査施設を探すことが、今後の課題とされる。

E.結論

なし

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

なし

H.知的所有権の出願・登録状況(予定を含む)

なし

図1 月別受験者数と検査結果

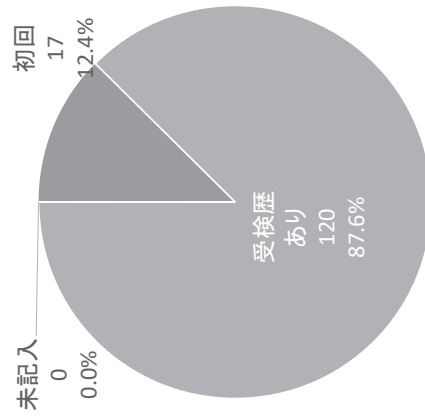
月	予約数 (人)	受験者数 (人)	リピーター (人)	HIV(+)	TPHA(+)	HBsAg(+)
4月	15	14	7	0	1	0
5月	15	11	5	1	1	0
6月	15	15	10	0	1	0
7月	15	15	8	0	0	0
8月	15	15	8	0	1	0
9月	15	13	6	0	2	0
10月	15	13	8	0	1	0
11月	15	13	6	0	1	0
12月	15	13	12	0	2	0
1月	15	15	12	1	0	0
合計	150	137	82 (59.9%)	2 (1.46%)	10 (7.30%)	0 (0.0%)

* IDカードにより確認することができたリピーター数を示す。

* 定員は各回15人。

N=137

図3 HIV受検歴



N=120

図2 リピーターとの受験回数、梅毒の既往歴

(1) HIV陽性の検査結果

検査日	年齢	HIV抗体	HIV抗原	TPHA	HBsAg	確認検査	告知日	受診状況
2022/5/16	37	+	-	+	-	+	5/25	受診
2023/1/23	25	+	-	-	-	+	1/31	

(受診状況は2023年2月14日時点)

(2) 梅毒(TP抗体)既往歴

	当検査の受検歴		梅毒既往歴		合計
	梅毒既往あり	梅毒既往なし	梅毒既往あり	梅毒既往なし	
初回	4	1	1	5	5
リピーター*	5	0	0	5	5
計	9	1	1	10	10

* IDカードにより確認することができたリピーター数を示す。

図4 前回の受検施設 (受検歴あり120人)

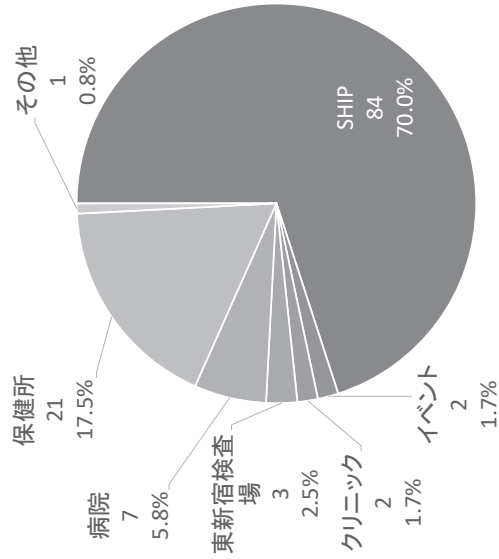


図5 年齢別構成

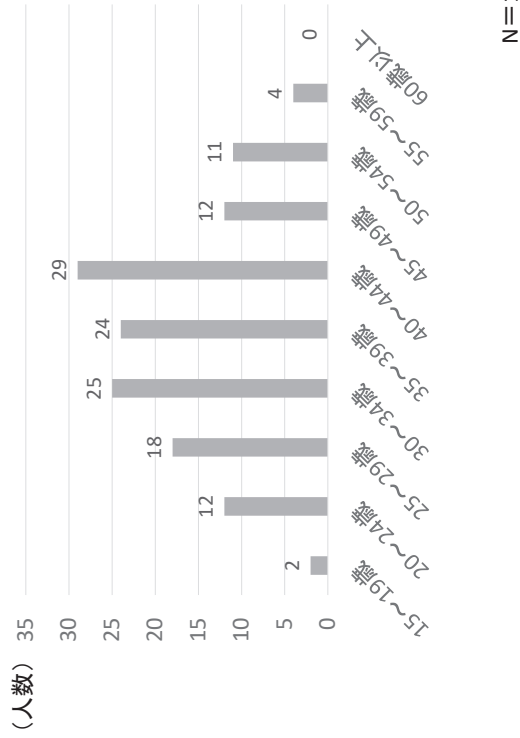


図6 居住地構成

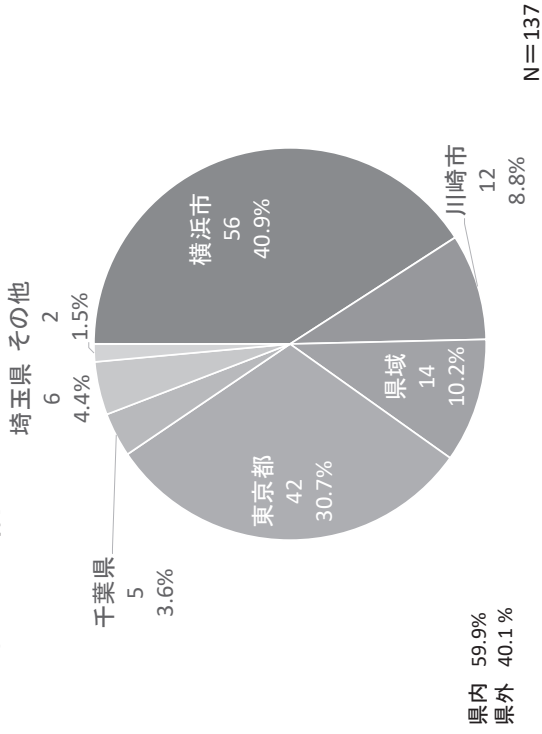


図7 受検動機

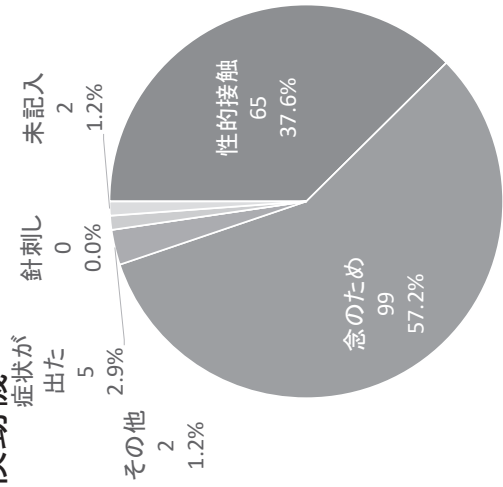


図8 気になる性的接触の相手との関係と
コンドーム利用状況 (受検動機: 性的接触 65名)

(1) 気になる性的接触の相手との関係

いつもの相手	初めての相手	出張ホストなど	未記入	合計
13 (20.0%)	46 (70.8%)	2 (3.1%)	4 (6.2%)	65 (100%)

(2) 気になる性的接触のコンドーム利用状況

	しなかった	使った	使わなかった	未記入	合計
オーラル	4 (6.2%)	2 (3.1%)	58 (89.2%)	1 (1.5%)	65 (100%)
アナル(ウケ)	34 (52.3%)	14 (21.5%)	14 (21.5%)	3 (4.6%)	65 (100%)
アナル(タチ)	27 (41.5%)	13 (20.0%)	21 (32.3%)	4 (6.2%)	65 (100%)

図9 当検査を選んだ理由（複数回答）

当検査場を選んだ理由 (事後アンケート回答者数 133人)

選んだ理由	人数	(%)
直ぐに結果が分かるから	109	82.0%
梅毒・B型肝炎も受けられる	104	78.2%
ゲイ専用なので	61	45.9%
場所が近いから	58	43.6%
曜日と時間帯が受けやすい	52	39.1%
前に受けたから	39	29.3%
その他	5	3.8%
他の検査場が分からない	2	1.5%

図10 満足度調査

(1) 役に立つ知識を得られましたか？ (事後アンケート回答者数 133人)

項目	人数	(%)
得られた	123	92.5%
得られなかった	2	1.5%
(空白)	8	6.0%

(2) 知人・友達にこのSTD検査をすすめたいと思いますか？ (事後アンケート回答者数 133人)

項目	人数	(%)
すすめる	88	66.2%
話してみたい	27	20.3%
わからぬ	11	8.3%
すでに受けている	0	0.0%
話す気はない	4	3.0%
(空白)	3	2.3%